

## はじめに

### 始めます「多摩しみどりのルネッサンス」への取り組み

多摩市は、みどり豊かで住みやすいまちとして市政世論調査でも常に市民の皆さんから高い評価を得ています。しかし、日本の高度経済成長を支えた勤労者のまちとして里山であった多摩丘陵を造成し、日本でも有数の多摩ニュータウンとしてまち開きしてから40数年が経ち、育ちすぎた樹木や手入れの行き届かない樹林地などでは日照問題や防犯・安全安心問題、風倒木問題などが生じてきました。

そこで、平成24年10月、涌井史郎先生（東京都市大学環境情報学部教授）に会長をお願いし、6名の専門家の委員の皆さんで構成する「多摩しみどりのあり方懇談会」を発足しました。足かけ3年にわたり熱心に論議いただき、このたび「多摩しみどりのルネッサンスへの取り組み」とする報告書を取りまとめいただきました。

私は、市民主権のまちづくりを進めていく中で、「愛でるみどりから関わるみどりへ」をコンセプトに「みどりのルネッサンス」として、これからは市民の皆さんが中心となり、生物多様性や里山のみどり、そして都市公園や学校のみどりを維持管理していく主役でありパートナーとして活動していただきたい、そう願ってまいりました。教育の分野でもESD（持続発展）教育に取り組み、多摩市では「2050年の大人づくり」と称して多摩川や近隣のみどり、校内の菜園や学校林あるいはゴーヤのカーテンを通した自然環境学習など、子ども達による活発な活動が展開されています。

懇談会では、7つのリーディングプロジェクトを設定し、それぞれの具体的な取り組みの方策と主体的な取り組み者、協働・連携者の立ち位置を分かりやすくするため、「市民・市民活動団体など」、「行政」、「大学・企業・専門家など」3つにカテゴライズし、それぞれの役割を明確にしました。リーディングプロジェクトをスタートした当初は、ワークショップなどで戸惑いの声も聞かれましたが、懇談会の先生方の協力もいただき、現在では多くの市民の皆さんにご理解をいただき、着実に種が蒔かれていると実感しています。

総合公園、近隣公園、街区公園などが整備されている多摩市は、一人当たりの市立公園面積が13.5㎡と多摩地域26市でトップです。これらのみどりは、私たちの大事な共有財産です。花や樹木、農業あるいは里山などみどりに関わる市民団体、公園の花壇や樹木の維持管理に関わる愛護会やアダプト団体、さらには自治会、管理組合、小・中学校の子どもたちやPTAなど多くの皆さんの理解によって、これらの豊かなみどりは維持されています。多摩センターにある多摩中央公園には、多摩市立グリーンライブセンターがあり、恵泉女学園大学、多摩市グリーンボランティア連絡会そして多摩市の三者連携により運営され、みどりを愛する市民やボランティアの皆さんの「集い・憩い・学びの拠点」となっています。

また、平成27年度からスタートする第五次多摩市総合計画第2期基本計画では、「健幸都市（スマートウェルネスシティ）の創造」を主軸に、超高齢化社会が到来する中でみどりとの関わりやコミュニティを通した市民一人一人の顔がみえる市民協働を大事にした、誰もが幸せに生きられるまちづくりを進めていくことを標榜しています。本報告書は、懇談会による「みどりのルネッサンス」を進めるための具体的手引き書でもあります。

平成27年9月には「多摩しみどりのルネッサンス」のシンポジウムを開催し、市民の皆さんの理解と協力をいただきながら、多摩市ならではの取り組みをしっかりと前に進めていきたいと考えています。

結びに、「多摩しみどりのあり方懇談会」の委員の皆さん、市民ワークショップの試行を行った永山第二公園、瓜生緑地、馬引沢南公園、現在進めている鶴牧西公園、乞田・貝取ふれあい広場の各ワークショップにご参加いただきました市民の皆さん、そして本懇談会を傍聴していただいた市民の皆さんならびに多くのご関係者の皆さんに心より御礼を申し上げます。



平成27年3月  
多摩市長 阿部裕行